# 無形固定資産

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　無形固定資産の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「××償却」勘定（販売費及び一般管理費）

**無形固定資産**とは、長期間使用するために保有する形がない権利等の資産です。具体的には、のれん、特許権、借地権、商標権、ソフトウェア、ソフトウェア仮勘定などがあります。なお、ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定とのれんの具体的な内容については後で学習します。

### （1）取得時

無形固定資産を取得した時は、**取得原価**で各無形固定資産の勘定で処理します。なお、取得原価は購入代価に購入手数料等の付随費用を加えて算定します。なお、割戻があった場合には、これを控除します。

**取得原価 ＝ 購入代価 － 割戻 ＋ 付随費用**

### （2）決算時

通常、**残存価額ゼロ**、**定額法**により各償却期間（耐用年数）で**月割償却**を行います。償却期間は問題に与えられますが、自社利用のソフトウェアは5年以内、のれんは20年以内に償却します。記帳方法は**直接法**です。なお、無形固定資産の償却額は通常、損益計算書の**販売費及び一般管理費**に計上します。

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **特　許　権　償　却** | ×××| **特　　許　　権** | ××× |

**例題**　**特許権80,000円を当期首に取得し、代金は小切手を振り出して支払った。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **特　　許　　権** | **80,000** | **当　座　預　金** | **80,000** |

**例題**　**当期首に取得した特許権80,000円を決算にあたり、8年で定額法により償却する。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **特　許　権　償　却** | **10,000** | **特　　許　　権** | **10,000** |

特許権償却：80,000÷8年＝10,000

# 長期前払費用

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　長期前払費用の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「長期前払費用」勘定（資産）

「前払費用」勘定（資産）

**（１）収益・費用の前受・前払と未収・未払**（日商簿記3級で学習済み）

収益・費用の前受・前払と未収・未払は以下の４つあります。

**収益の前受 ⟶ 前受収益（負債）**

**費用の前払 ⟶ 前払費用（資産）**

**収益の未収 ⟶ 未収収益（資産）**

**費用の未払 ⟶ 未払費用（負債）**

**（２）長期前払費用**

**長期前払費用**とは、前払費用のうち１年以内に費用とならないものをいいます。長期前払費用は貸借対照表においては、投資その他の資産に計上されます。

なお、収益と費用の前受・前払と未収・未払のうち、前払費用のみ**一年基準**により長短分類され、その他はすべて**流動項目**です。

**例題**　**決算整理前残高試算表の保険料は、2031年1月１日に向こう2年分の保険料である。なお、決算日は2031年3月31日である。**

**決算整理前残高試算表（一部）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **保　　険　　料** | **2,400** | | |

①　決算整理

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **前払保険料** | **1,200** | **保　　険　　料** | **2,100** |
| **長期前払保険料** | **900** | | |

前払保険料：2,400÷24ヶ月×12ヶ月＝1,200

長期前払保険料：2,400÷24ヶ月×9ヶ月＝900

②　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 前　払　保　険　料 | 1,200 | | |
| 長期前払保険料 | 900 | | |
| 保　　険　　料 | 300 | | |

# 固定資産②　問題

**問題1**　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　火災により焼失した建物（取得原価500,000円、残存価額50,000円、耐用年数10年、定額法により償却、間接法により記帳）について請求していた保険金120,000円を支払う旨の連絡を保険会社から受けた。なお、当該建物は取得から7年を経過した当期首において火災があり、簿価の全額を未決算勘定に振り替えていた。

②　建物の改修工事を行い、工事代金70,000円は現金で支払った。なお、40,000円は耐用年数延長のための支出であり、残りは定期的な修繕のための支出である。

③　建設を依頼していた建物が完成したので、工事代金の残額600,000円について小切手を振り出して支払い、建物の引き渡しを受けた。当該建物に対しては、工事代金としてすでに300,000円の支出をしている。

④　2029年10月1日に取得した特許権を決算にあたり、8年で定額法により償却する。なお、特許権の当期首の簿価は150,000円であり、決算日は2031年3月31日である。

⑤　2030年8月1日に新工場が完成した際に、3年分の火災保険料108,000円を現金で支払い、全額を保険料として処理していたが、決算にあたり前払分を繰延処理する。なお、決算日は2031年3月31日である。

⑥　機械380,000円を購入し、代金は額面100,000円の約束手形を４枚振り出した。

# 固定資産②　答案用紙

**問題1**

| | 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|---|
| ① | | | | |
| ② | | | | |
| ③ | | | | |
| ④ | | | | |
| ⑤ | | | | |
| ⑥ | | | | |

# 固定資産②　解答解説

**問題1**　**解答**

| | 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 未収入金<br>火災損失 | 120,000<br>65,000 | 未決算 | 185,000 |
| ② | 建物<br>修繕費 | 40,000<br>30,000 | 現金 | 70,000 |
| ③ | 建物 | 900,000 | 建設仮勘定<br>当座預金 | 300,000<br>600,000 |
| ④ | 特許権償却 | 20,000 | 特許権 | 20,000 |
| ⑤ | 前払保険料<br>長期前払保険料 | 36,000<br>48,000 | 保険料 | 84,000 |
| ⑥ | 機械<br>支払利息 | 380,000<br>20,000 | 営業外支払手形 | 400,000 |

**問題1**　**解説**

①　火災発生時に以下の仕訳を行っています。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| 建物減価償却累計額 | 315,000 | 建　　物 | 500,000 |
| 未　決　算 | 185,000 | | |

建物減価償却累計額：(500,000－50,000)÷10年×7年＝315,000

未決算：500,000－315,000＝185,000

保険金が確定したので、以下の仕訳を行います。なお、まだ保険金を受け取っていないので、後日受け取る保険金額については「未収入金」勘定（資産）で処理します。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **未　収　入　金** | **120,000** | **未　決　算** | **185,000** |
| **火　災　損　失** | **65,000** | | |

②　耐用年数が延長する支出は資本的支出に該当するため、該当する固定資産の取得原価に加算します。また、定期的な修繕は収益的支出であるため、「修繕費」勘定（販売費及び一般管理費）で処理します。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **建　　物** | **40,000** | **現　　金** | **70,000** |
| **修　繕　費** | **30,000** | | |

③　すでに支払った工事代金は「建設仮勘定」勘定（資産）で処理しているので、それを減少させます。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **建　　物** | **900,000** | **建　設　仮　勘　定** | **300,000** |
| | | **当　座　預　金** | **600,000** |

④　無形固定資産の記帳方法は直接法であるので、期首の簿価は残存期間に対応する金額です。

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **特　許　権　償　却** | **20,000** | **特　　　許　　　権** | **20,000** |

特許権償却：150,000÷残存月数(96ヶ月－6ヶ月)×12ヶ月＝20,000

⑤　保険料のうち次期に帰属する分は「前払保険料」勘定（資産）、それ以降の期間に帰属する分 は「長期前払費用」勘定（資産）で処理します。

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **前　払　保　険　料** | **36,000** | **保　　　険　　　料** | **84,000** |
| **長 期 前 払 保 険 料** | **48,000** | | |

前払保険料：108,000÷36ヶ月×12ヶ月＝36,000

長期前払保険料：108,000÷36ヶ月×16ヶ月＝48,000

⑥　固定資産の割賦購入

振り出した約束手形は「営業外支払手形」勘定（負債）で処理します。また、機械の取得原価と手形により支払総額の差額は「支払利息」勘定（営業外費用）で処理します。

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **機　　　　　械** | **380,000** | **営 業 外 支 払 手 形** | **400,000** |
| **支　払　利　息** | **20,000** | | |

営業外支払手形：@100,000×4枚＝400,000